

## 札幌市立かっこう幼稚園の取組

### 1. 研究のねらい

冬の遊びを通して、教師や友達、保護者など親しみのある人とのかかわりを深めたり広めたりしていく中で、札幌という風土を感じ、愛着をもって生活をしてほしいと願う。

幼児にとって、身近な雪や氷に触れる遊びを充実させていく環境や援助を工夫することで自然の不思議さを体感し、自分たちの遊びや生活に取り入れる力を育てていきたい。

### 2. 取組内容

#### (1) 雪遊びを通しての幼児期の学びとは

##### ① 五感を通して体感する学び

今季初めてまとまった積雪があった朝一番。クラスのテラスから飛び出した年中組。大の字の友達を真似て我も我もと駆け出す。体で柔らかなひんやりとした感触を楽しむ。感性を刺激する雪という自然。



雪国の子どもでもこうした経験を家庭ではあまりしない。毎日遊ぶ園庭だからこそ、雪質や量の違いに感覚的に気付く。五感を刺激する雪という自然は、その日偶然もたらず恩恵が潜んでいる。幼稚園は環境を通して行う教育である。偶然を逃すことなく、幼児主体の学びにつながるように出会わせる工夫は教師の感性によるものである。

##### ② 先行経験を生かし、考え試行錯誤する・科学する心へ



年長組はこの夏サンドアートブーム。大きなバケツに入れた砂と水の配合により強度の変化やコテで滑らかな曲線を作れることを発見し、細部を削ることに挑戦した。その経験を雪遊びにも活用している。教師が気付かぬ中にバケツの水を友達と何度も運んだり、雪と水の配合にこだわり試行錯誤を繰り返す。連日、目的を同じくする友達同士誘い合い、「～だった」と自分たちの発見

を学級担任やクラスメートに口コミで伝える姿が見られた。幼児期の数量は概念ではなく、「これくらい?」「昨日はバケツで何回入れた」といった感覚的なものである。固まり具合は砂と違い、気温が関係することは予想していない。担任も今(12月中旬)は気温のことはあえて口に出さず、子どもが「なぜ固くならないのか」と疑問をもったり、厳寒時に同じ活動した時には違いを発見し、自然の不思議さにワクワク心躍らす経験につなげたいと密かに仕掛けるタイミングを待っている。

#### (2) 地域や保護者との連携しながら札幌の冬を楽しむ工夫



### ①ポロップ広場（未就学親子の遊びの広場）

市立幼稚園 10 園では、月に 1-2 度のペースで地域の未就学親子が遊びに来る場を提供している。

家庭にこもりがちな親子が楽しく遊べる場を作り、安心安全な環境の中で雪遊びを存分にできるように心がけている。親子でそり滑り、粉絵具や入浴剤を使った色雪でのケーキ作り。米袋のそりはコーナー製作にして家庭でも遊べるように作り方を知らせている。

異年齢の子どもたちが同じ遊びを楽しむ中で、遊びのコツや楽しみ方を自然に共有する場になる。子どもたちが憧れるかまくらも大人の力が加わるとあっという間に完成。子育て経験の浅い母親にとって、何気ない子ども同士のかかわりが自然な学びにつながっていく姿を目の当たりすることは、子育ての意欲や喜びにつながる。



### ②保育参加～ペンギんクラブ

本園の保護者に大好評な保育参加。家庭から持ち寄った卵パックやプリンカップに色水を流し込む氷作りは、簡単に楽しめる冬の遊びの定番である。今回はヨーヨー袋に水を入れて丸い氷作りに夢中になった。

保護者が冬の自然の開放感の中で子どもと遊び、家庭とは違う表情を見せる子どもたちの遊びに入ると、子どもたちの成長をダイレクトに感じることができる。このように、家庭でも再現し、親子で札幌の冬を楽しむことにつなげることを意識して取り組んできた。

## 3. 成果と課題

### (1) 成果

長い冬の札幌の暮らしを楽しむコツは共感する仲間を増やすこと。教師はもちろん保護者・地域の方にも体験してもらい、子どもたちがワクワク生き生きと遊ぶ姿を直接見たり、事後の様子をカラー写真でお便りやドキュメンテーションにして「見える化」する。どんな学びがあったか分かりやすく要点を解説し、家庭と情報共有すると効果的である。保護者との茶話会や懇談会でも家庭と雪遊びでの学びや楽しさを取り上げ共有する機会とし、幼児期にふさわしい生活や札幌の冬の楽しさと学びについて共感する場を重視してきた。



### (2) 課題

遊びを通して体験したことが学びに昇華されるにはたくさんの試行錯誤を支える教師の準備や援助と共に、たっぷりとした時間と共感する友達の存在が重要である。また変化する自然なので安全に遊べる環境に配慮も必要である。教育課程や指導計画の中に、「雪」に関する環境構成や援助・活動が発展していくプロセスなど検証し、取組状況について市民にもHPなどでアピールしたいと考える。